

本調査研究はモーターボート競走公益資金  
による財団法人日本船舶振興会の補助事業である

# 高速道路網の整備等に対応した海上雑貨 輸送体系のあり方に関する調査研究

昭和60年3月

財団法人 九州海運振興センター

# は し が き

本報告書は、当センターが（財）日本船舶振興会の昭和58年度～昭和59年度補助事業として実施した「高速道路網の整備等に対応した海上雑貨輸送体系のあり方に関する調査研究」の成果をとりまとめたものである。

昭和58年3月、中国自動車道が全線開通し、九州～阪神・京浜の経済圏が一本の高速道路で直結され、また翌59年2月には国鉄の貨物輸送が全国規模で直行輸送体系に移行するなど、地域間物資輸送のための陸上のパイプラインは大きく強化され、これに伴って、長距離フェリーをはじめとする海上雑貨輸送体系に対する深刻な影響が予想されている。

このような状況下にあって、長距離フェリー・内航革新船などの海上雑貨輸送機関が、省エネルギー、低公害等、海路のもつ特性を活かしながら、物流の大動脈として将来的にどのような役割と機能を果たしていくべきかを明らかにすることは、極めて重要な課題であると考えられる。

当センターでは、このような観点から2ヶ年にわたり、これらの調査に取り組んできたが、本報告書がたとえいささかでも、海上雑貨輸送の今後の健全な発展の一助となればと期待している。

終わりに、本調査研究に関して、多大の御指導と御協力をいただいた委員各位並びに、関係諸官庁や業界の方々に改めて謝意を表する次第である。

昭和60年3月

財団法人 九州海運振興センター

会 長 邑 本 義 一

「高速道路網の整備等に対応した海上雑貨輸送体系  
のあり方に関する調査研究」

委員名簿

委員長	堀内 隆治	下関市立大学経済学部教授
委員	矢部 泰治	第四港湾建設局企画課長
〃	角田 正道	日本国有鉄道九州総局貨物課長
〃	宮崎 繁守	日本道路公団福岡管理局業務部業務第一課長
〃	小川 徹	日本通運（株）九州支店次長
	(滝口 正)	( 〃 )
〃	松尾 勝	九州旅客船協会連合会専務理事
〃	中條 勝美	阪九フェリー（株）常務取締役北九州営業所長
〃	井口 泰明	(株)名門大洋フェリー取締役新門司港支店長
	(平田 欣也)	(太洋フェリー（株）苅田営業所長)
〃	千原 伸夫	九州運輸局企画部長
〃	塚田 俊三	〃 運航部長
	(小西 正弘)	( 〃 )
〃	平下 政俊	〃 企画部貨物流通企画課長
〃	藤原 斉	〃 運航部輸送課長
〃	坂下 貞美	〃 自動車部貨物第一課長
	(大塚 功夫)	( 〃 )
事務局	赤間 啓一	九州運輸局企画部貨物流通企画課 補佐官
〃	河内 博志	九州運輸局企画部貨物流通企画課 流通企画第一係長
〃	(清水 正澄)	( (財)九州海運振興センター調査役)
集計解析	千原 力	(株)福山コンサルタント調査部

( )内は前任者

# 目 次

序 .....	1
1. 調査の目的 .....	1
2. 調査の体系 .....	1
第1章 雑貨輸送の概要 .....	3
1. 海上雑貨輸送の概況 .....	3
(1) 長距離フェリーと内航革新船の就航状況 .....	3
(2) 長距離フェリーの輸送実績 .....	6
(3) 内航革新船の輸送実績 .....	10
2. 高速道路輸送の概況 .....	11
(1) 高速道路網の整備状況 .....	11
(2) 高速道路利用交通量 .....	14
3. 国鉄貨物輸送の概況 .....	18
(1) 直行輸送システムの概要 .....	18
(2) 国鉄貨物輸送実績 .....	21
第2章 利用手段別特性 .....	23
1. 長距離フェリー・内航革新船 .....	23
(1) 輸送特性 .....	23
① 車両等の特性 .....	23
② 品目特性 .....	30
(2) サービス水準 .....	38
① 航送時間 .....	39
② 運 賃 .....	45
2. 高速道路 .....	47
(1) 輸送特性 .....	47
① 車両等の特性 .....	47
② 品目特性 .....	48

(2) サービス水準 .....	50
① 所要時間 .....	50
② 通行料金 .....	52
第3章 輸送環境の変化と対応 .....	55
1. 中国自動車道全線開通の影響 .....	55
(1) 中国自動車道開通前後の輸送実績 .....	55
① 長距離フェリーの航送台数 .....	55
② 中国自動車道の通行台数 .....	62
(2) 高速道路網整備の影響 .....	66
2. 国鉄合理化（直行輸送システム）の影響 .....	68
(1) 国鉄合理化前後の国鉄貨物輸送実績 .....	68
(2) 直行輸送システムの影響 .....	71
3. 貨物輸送システムの動向調査 .....	73
(1) トラック事業者の輸送システム動向 .....	73
① トラック運送事業者アンケート調査の概要 .....	73
② トラック業界の輸送システム動向 .....	75
(2) 荷主の輸送システム動向 .....	86
① 荷主アンケート調査の概要 .....	86
② 荷主業界の輸送システム動向 .....	87
(3) 無人車航送システム動向 .....	105
① トラック運送事業者ヒアリング調査の概要 .....	105
② トラック業界の無人車航送システム動向 .....	106
(4) 要望と将来計画 .....	109
4. 長距離フェリー・内航革新船事業者の意識調査 .....	111
(1) 使用船リプレイス計画と問題点 .....	111
(2) 運賃体系の現状と将来計画 .....	112
(3) 高速道路網整備の影響 .....	115
(4) 国鉄合理化の影響 .....	119
(5) 今後の輸送動向と将来計画 .....	121

5. 海上雑貨輸送主要貨物の動向	124
(1) 主要貨物の生産状況	124
① 第一次産品	124
② 第二次産品	128
(2) 貨物自動車の保有状況	132
① 地域別貨物自動車保有数の推移	132
② 積載量別貨物自動車保有数の推移	134
第4章 エネルギー・輸送コストの分析	137
1. エネルギー・輸送コスト調査の概要	137
(1) 調査項目	137
(2) 与件	140
2. 調査結果の概要	146
(1) 消費エネルギー原単位の比較検討	147
(2) 輸送コストの比較検討	148
第5章 海上雑貨輸送の今後のあり方	165
1. 海上雑貨輸送機関の特性等	165
2. 海上雑貨輸送整備の指針	167
(1) 運航ダイヤの設定等サービス水準のあり方について	167
(2) 船舶の適正化について	169
(3) 旅客・乗用車の需要拡大について	169
(4) 無人車航送システム化について	170
(5) 総合物流業者への脱皮を旨として	171
参考資料	
1. 高速道路都府県間交通量の推移	173
2. 積載量別貨物自動車保有数の推移	177

調査票

1. 貨物輸送システム動向調査 .....	180
2. 長距離フェリー実態調査 .....	186

詳細は当センターへお問合せ下さい

(財)九州運輸振興センター

電話 : 092-451-0469

e-mail : info@kyushu-transport.or.jp